

市長が行く

No.6



茂原市長 田中豊彦

ソルズベリー市訪問を終えて

10月24日から30日まで、姉妹都市であるオーストラリアのソルズベリー市を、安藤商工会議所会頭ご夫妻をはじめとし、私たち市長夫妻、ロータリークラブや市議会議員から数名の参加者も加え総勢21人の訪問団で訪れ、大変温かい歓迎を受けてまいりました。

ソルズベリー市とは2002年以来、毎年文化交流や少年野球などのスポーツ交流、また、ロータリークラブを紹介した交換留学生の交流などが行われてきました。

モーションレイクスという開発地区の一角に、4年前友好のしるしとして茂原公園が作られたのですが、今年はそので4周年の記念式典が行われました。4年前に茂原市から贈られた市内在住の佐藤先生が作られた「仲良し」というブロンズ像は立派にその友好の役目を果し、茂原公園の中で大切にされています。また、「茂原まつり」として、現地にいる日本の方たちが集まり、様々なイベントが行われたのですが、訪問団の中には茶道の湯浅先生もお弟子さんと共に参加されたので、日本

の文化として茶道を紹介し、オールドリッジ市長さんをはじめ多くの方にお茶を味わってもらい、和やかなひと時を過ごしました。

ソルズベリー市は、南オーストラリアのアデレードというオーストラリアで一番歴史のある町の郊外に位置します。一年を通して降水量が少なく、水の問題は大変重要です。そのため、ソルズベリー市では、水の循環を第一に考え、流末にある湿地帯を使って、流れてきた雨水を自然の力で浄化し、その水を有効に利用できるように考えられています。今回その施設も見学しましたが、参加者一同、水の豊富にある日本のありがたさをあらためて感じました。

また、モーションレイクスの中には、幼稚園から大学まであり、今回は小学校を見学させていただきました。様々な人種の子どもたちが集まり、共通語は英語ですが、それぞれが違う母国語を話し、自然にその違いを受け入れ認め合っている仲良しのびのびと学習していました。

ある教室では日本語の授業

をしていました。先生は茂原市に来たことがある方で、流暢とはいえないまでも、一生懸命日本語を教えている姿に大変感銘を受けました。

校長先生のアラン氏が、「子どもたちは幸せの状態にいる時に、多くのことを学び吸収するのです」とおっしゃった言葉がとて印象に残っています。

ソルズベリーの市庁舎や議会室も見せていただきました。2階建てのシンプルながら美しい建物で、合理的に行政を運営しているように見受けられました。議会は、議長を務める市長も、また、議員たちもボランティアなので、それぞれ自分の仕事を持っているため、夕方5時過ぎから行われます。ボランティアということも素晴らしいと思いましたが、副市長のヘインズ氏が、「皆市を良くしようと頑張っている」と胸を張っておっしゃったことに、とても感動しました。

これからはグローバルな視点を持ち、他の国とも対等に交流し、お互いの良いところを学び、それを生かしていくことがとても大切になってくると思います。

そのことから、こういう姉妹都市交流は有意義なものであり、今後も友好関係が長く続いていくことを願ってやみません。